

1. まちなみガイドラインとは



まちなみガイドラインの目的

景観づくりを進めるにあたっては、市民や事業者のみなさまの主体性に負う部分が大きく、ひとりひとりが景観づくりの主役といえます。これからは行政と力をあわせ、それぞれの立場から景観づくりに取り組んでいくことが重要です。

そのためにも、共通認識に基づき自らが目標像を定め、これを守り・育てるとともに、それぞれが役割を担うことが求められます。

津屋崎千軒まちなみガイドラインは、豊かな自然、伝統文化を損なうことなく、良好なまちなみが形成されるよう、地域の特性や課題を整理し、まちなみの目標や方針、推進の方策を示すものです。

このガイドラインが、広く・長く浸透し、創意工夫も加わりながら、良好なまちなみの実現に寄与できることを願っております。



まちなみガイドラインの位置づけ

津屋崎千軒まちなみガイドラインは、許可・届出の必要のない建築行為等にあっても、景観形成への協力を呼びかけ、市民や事業者のみなさまに自主的に活用していただくことを意図しています。

歴史的なまちなみを手がかりにしながらも、物的資源に依存するだけではなく、地域の底上げを図り、まち全体の将来像を構想するための起点としての活用が期待されます。

また、作成にあたっては、津屋崎千軒に関係のある多くのみなさまとの共働作業を行いました。ここには、津屋崎千軒のまちなみが、地域のそして我が国の共有の財産としてふさわしいものに育って欲しいという願いがこもっています。



まちなみのとらえ方

過去のまちなみは、自然の変化、産業立地や市街化の変化、建物による変化などからとらえます。これらは、原風景としても記憶に残っている部分の景観のことです。

現在のまちなみは、建物の形態（高さや色彩など）の他に、建物と自然との関係、遠景や近景との関係などから判断され、特徴をつかんでいきます。

過去と現在をふまえ、未来のまちなみの目標像やテーマを考えていきます。

歴史	自然環境の変化 産業や都市化による変化 建築による変化	記憶された形態
現状	四季の変化 昼夜の変化 人や物の動き ①自然的要素 ②歴史・文化的要素 ③建築・空間的要素 ④コミュニティ活動	まちなみの現状と特徴
未来	目標像・作法	

津屋崎千軒まちなみガイドライン

まちなみのとらえ方と本冊子の構成

